【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】令和2年6月11日(2020.6.11)

【公開番号】特開2019-36485(P2019-36485A)
【公開日】平成31年3月7日(2019.3.7)
【年通号数】公開・登録公報2019-009
【出願番号】特願2017-157997(P2017-157997)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｈ　27/00　(2006.01)
Ｈ０１Ｒ　13/64　(2006.01)
Ｈ０１Ｒ　13/629　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｈ　27/00　Ｅ
Ｈ０１Ｒ　13/64
Ｈ０１Ｒ　13/629

【手続補正書】
【提出日】令和2年4月17日(2020.4.17)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２４】
【図１】本発明の実施の形態によるコネクタ装置のコネクタ及び相手側コネクタを示す斜視図である。コネクタは相手側コネクタから離れている。相手側コネクタは、バスバーに接続されている。
【図２】図１のコネクタを示す分解斜視図である。
【図３】図２のコネクタのサブハウジングを示す側面図である。
【図４】図３のサブハウジングを示す底面図である。
【図５】図１の相手側コネクタを示す分解斜視図である。相手側検知端子は、信号線に接続されており、且つ、相手側サブハウジングに保持されている。
【図６】図５の相手側コネクタの相手側検知端子を示す側面図である。相手側検知端子は、信号線に接続されている。相手側検知端子の一部（破線で囲んだ部分）を拡大して描画している。
【図７】図１のコネクタ装置を示す側面図である。コネクタは非接続状態にある。軸部、ガイド凹部、相手側軸部および被ガイド突起の隠れた輪郭を破線で描画している。
【図８】図７のコネクタ装置を示す上面図である。
【図９】図８のコネクタ装置の相手側コネクタの一部（破線Ａで囲んだ部分）を拡大して示す上面図である。
【図１０】図８のコネクタ装置をＢ－Ｂ線に沿って示す断面図である。コネクタの一部（破線で囲んだ部分）を拡大して描画している。
【図１１】図７のコネクタ装置を示す別の側面図である。コネクタは中間状態にある。相手側軸部、ガイド凹部および被ガイド突起の隠れた輪郭を破線で描画している。
【図１２】図１１のコネクタ装置を示す上面図である。
【図１３】図１２のコネクタ装置をＣ－Ｃ線に沿って示す断面図である。コネクタ装置の一部（１点鎖線で囲んだ部分）を拡大して描画している。拡大図において、相手側サブハウジングの隠れた開口部及び相手側検知端子の輪郭と、検知端子の先端が開口部の上端に達したときの検知端子の輪郭とを破線で描画している。

【図１４】図１２のコネクタ装置をＤ－Ｄ線に沿って示す断面図である。コネクタの一部（破線で囲んだ部分）を拡大して描画している。
【図１５】図７のコネクタ装置を示す別の側面図である。コネクタは接続状態にある。
【図１６】図１５のコネクタ装置を示す上面図である。
【図１７】図１６のコネクタ装置をＥ－Ｅ線に沿って示す断面図である。
【図１８】図１６のコネクタ装置をＦ－Ｆ線に沿って示す断面図である。
【図１９】図１８のコネクタ装置のうちのサブハウジングの一部と相手側サブハウジングとを示す断面図である。
【図２０】図１３のコネクタ装置の被ガイド部がガイド部と突き当たった状態におけるガイド部、被ガイド部、移動規制部及び移動被規制部の間の位置関係を示す図である。サブ回転軸及びサブ軸受の位置を破線で描画している。
【図２１】特許文献１のコネクタ装置を示す側面図である。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５６】
図２及び図３を参照すると、サブハウジング３００は、２つの第１移動被規制部３４２と、第１移動被規制部３４４と、第２移動被規制部３４６とを有している。第１移動被規制部３４２は、２つの側板部３４０に夫々対応して設けられており、Ｘ方向及びＺ方向において、互いに同じ位置にある。図示された状態において、第１移動被規制部３４２の夫々は、対応する側板部３４０の上縁のうち前側に位置する部位であり、Ｘ方向及びＺ方向の双方と斜交している。より具体的には、第１移動被規制部３４２の夫々は、下方に傾斜しつつ前方に延びている。第１移動被規制部３４４は、後板部３３０の後面のうち上端近傍の部位であり、Ｘ方向及びＺ方向の双方と斜交している。より具体的には、第１移動被規制部３４４は、下方に傾斜しつつ後方（＋Ｘ方向）に延びている。第２移動被規制部３４６は、後板部３３０の後面のうち第１移動被規制部３４４よりも下側の部位であり、Ｘ方向と直交している。